

7月14日 楽しいこと

大学に入った頃、目標を失ってしまって、毎日だらだらと過ごしていた。お金はないけど、時間は飽きるほどにあった。

「毎日つまらんなあ。なんか楽しいことはないかなあ」。知らぬ間に私の口癖になっていた。

あるとき友人が、「愛川。楽しいことは自分で作るもんや。愚痴ばかり言うてても何も変わらへん」と、妙に真面目な顔をして私に言った。私の口癖に辟易していたのだろう。

大学に入る前、私にはしたいことがたくさんあった。アルバイト、テニス、バンド活動、同人誌の発行、海外旅行……。友人の言葉に押されて、私はすべてにチャレンジした。

大学に貼り出されていた求人票を見て、塾講師のアルバイトを始めた。国文科の学生が、中学生に英語を教えることになった。勉強嫌いの私が勉強を教える。“教えることは学ぶこと”だとこのとき知った。友達数人とテニスサークルを作った。サークルというと遊びの要素が多そうだが、真剣にテニスに取り組むサークルだった。音楽好きが集まってバンドも組んだ。弾いたこともないベースの担当になった。高校時代から書きためていた詩を発表するため、同人誌を発行した。そして、卒業旅行で天安門事件前の中国に行った。往復の飛行機のチケットしかないフリープランの旅だった。

例のごとく勉強はほとんどしなかったが、大学4年間でいろいろなことを経験することができた。実は楽しいことを追い求めると、その過程には辛いことがいっぱいある。けれど、そのすべてが、今も私という人間の肥やしになっている。

